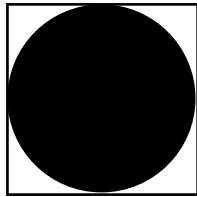


InSEA



公益社団法人 日本美術教育連合 ニュース

No. 175

2025. 9

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-30-14 文京ビル 206 号

公益社団法人 日本美術教育連合

発行人 理事長 大坪圭輔

ニュース担当 矢澤 聡

E-mail: info@insea-in-japan.or.jp

巻頭言ー学びの中核としての授業ー

公益社団法人 日本美術教育連合代表理事 大坪圭輔

150年前に学校が設置されて以来、それぞれの時代によって目的や方法に違いはあっても、教室の中で展開する授業によって、子どもたちは成長してきました。しかし現代において、子どもたちの学びは教室の中の授業という限られた時空間の中にのみ存在するものではありません。「社会に開かれた教育課程」は、社会のつながりの中で学ぶことで、子どもたちが自分の力で人生や社会をよりよくできるという実感を持つこととし、学校には社会と連携・協働した教育活動の充実を求めています。このような現在の教育課程の柱立てを参照するまでもなく、授業の主役である子どもたちは、教室の外の世界との結びつきを強め、そこで様々なことを日々学んでいます。150年前の学校は社会の最先端でした。学校に行けば今まで見たことも聞いたこともない、新鮮で感動に満ちた諸々との出会いと学びがありました。しかし、現代の子どもたちにとっての最先端は、ネット上に広がるデジタル化された情報や映像です。このような状況において、授業とは何か改めて考えてみる必要があります。

子どもたちの学びの環境が広がりその方法も大きく変わるとき、子どもたちの授業に対する意識にも変化が生じています。令和5年の「義務教育に関する意識に係る調査」は、「教師向け調査」と「児童生徒向け調査」、そして保護者を対象とした「Webモニター調査」で構成されています。その中の授業に対する意識では「周りと同じペースで学びたい」よりも、「自分のペースで学びたい」とする児童生徒が多く、「みんなで話し合って考えを深めたい」と考える児童生徒も半数を超えています。しかし、いかに学びの場が広がり、その方法に変化があったとしても、子どもたちの学びの中核は日々の授業です。そして学びの中核としての授業を担当する教師には、より一層の研修と研究が求められます。日本美術教育連合は多種多様な研修の機会を提供していきたいと考えます。前述の調査では「義務教育修了時に身に付けておくべき能力・態度」について、「新しいものや考えを生み出す創造的な力」を挙げたのは、教師7.1%、Webモニター14.8%に対して、児童生徒は48.8%となっています。

第59回 日本美術教育研究発表会2025 案内

☐日 時：令和7（2025）年10月5日（日）9：00ー16：30（予定）

☐場 所：明治学院大学 白金キャンパス 対面+オンライン（Zoom）によるハイフレックス
*発表者・参加者共に現地参加。ただし、海外からはオンラインによる発表が可能

☐主 催：公益社団法人 日本美術教育連合（InSEA-JAPAN）

☐後 援：文化庁、東京都教育委員会

※最新情報は、日本美術教育連合HPに掲載されますので、ご確認ください

■第9期理事候補者選出選挙について■

選挙管理委員会委員長 佐藤 牧子

会員の皆様におかれましては、日頃より日本美術教育連合の活動にご理解とご協力を賜り、美術教育の発展のためにご尽力いただいておりますことに、厚く御礼申し上げます。

このたび、第9期（2026（令和8）年度・2027（令和9）年度・2028（令和10）年度3年任期）の理事候補者選出選挙を、下記要項に基づき実施いたします。投票用紙は本年12月上旬に正会員の有権者の皆様へ郵送されます。定款に則り、得票数の多い順に理事候補者5名を選出いたします。なお、運営委員は得票状況等を参考に理事会において選出されます。

現在、社会全体においては、男女共同参画の推進とジェンダー平等をはじめ、多様性の尊重が重要な課題とされています。美術教育は、多様な表現や視点を尊重し合う営みであり、その基盤の上に新しい価値が創造されてきました。本法人の理事候補者選出におきましても、この理念を踏まえ、公正で開かれた選挙が実現されますよう、会員の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

投票実施要項等

1. 投票期間・投票方法

2025（令和7）年12月上旬（投票用紙受取日）～2025（令和7）年12月31日（日）消印有効【約3週間程度】
以下の投票実施要項に従い、投票用紙に記入し、返送用封筒に同封して郵送する。

2. 投票実施要項

- ①同封の投票用紙（理事候補の被選挙人名簿）から15名以内を選び、それぞれ会員名の前の数字を○で囲んでください。16名以上○で囲んだ票は無効とします。なお、白票（○印の無い票）は有効とします。
- ②理事については、再任を妨げません。
- ③投票用紙は、理事長印のあるものに限りです。理事長印の無いものは無効となります。
- ④選挙人（投票の有権者）は、9月1日現在において2年以上の会費滞納がない本法人正会員とします。
- ⑤投票用紙は同封の茶封筒（何も書いていない封筒）に封入し、その封筒を選挙管理委員会の宛名書きのある封筒に封入のうえ、ご返送ください。

3. 開票（選挙管理委員会）

- ・実施日：2026（令和8）年1月中旬頃
- ・会場、立会人：調整中
- ・開票結果の報告：2026（令和8）年1月25日（日）の第7回理事会・運営委員会、及び「ニュースno.177」
2026.4

第9期 選挙管理委員会

佐藤 牧子（委員長）、茂木 克浩（委員）、川人 武（委員）、小林 貴史（顧問）

研究局より

■第59回 日本美術教育研究発表会2025【第二次案内】■

公益社団法人 日本美術教育連合理事 研究局運営委員長 手塚 千尋

大会概要

- 開催日時：令和7年（2025）年10月5日（日）9：00～16：30（予定）
- 会場：明治学院大学白金キャンパス 本館（東京都港区白金台1-2-37）
交通アクセス <https://www.meijigakuin.ac.jp/access/>
キャンパス案内 <https://www.meijigakuin.ac.jp/campus/shirokane/#anchor1>
- 開催形態：対面＋オンライン（Zoom）によるハイフレックス
＊発表者・参加者共に現地参加。ただし、海外からはオンラインによる発表が可能。
- 参加費等：会員・一般2,000円 学生・院生1,000円
- 研究交流会：無料
- 主催：公益社団法人 日本美術教育連合（InSEA in JAPAN）
- 後援：文化庁、東京都教育委員会



参加者・発表者のみなさまへ

- 参加登録期限：9月28日（日）23：00
- 参加登録：<https://peatix.com/group/7506961>（Peatix：日本美術教育連合）
＊参加登録にはPeatixのアカウントが必要です。
- 研究発表概要集について：
- ・全参加者へデータで配布します。各位、ダウンロードしてご覧ください。
 - ・大会前日までに研究局Webページへ研究発表概要集のデータファイル（閲覧制限あり）を掲載します。閲覧に必要なパスワードは、ご登録いただいたメールアドレスへ大会前日までにお知らせします。
 - ・発表会場において研究発表概要集の販売はありません。
- 発表会場Wi-Fiについて：
- ・発表会場では当日限定でWi-Fiに接続できます。IDとパスワードは受付時に配布します。eduroam（国際学術無線 LAN ローミング基盤）もご使用いただけます。
- 昼食・交流会について：
- ・構内で昼食を購入することができませんのでご持参ください。
 - ・交流会でのスイーツの交流も大歓迎ですので皆さんのオススメをお持ち寄りいただけますと幸いです。
- 論文投稿者説明会について：
- ・11：50～12：30に1251教室で開催します。今年度よりオンライン査読の新システム利用による投稿が開始されますので、発表の有無に関わらず会員の皆さまはできるだけご参集ください。
- 備考：
- ・大会終了後に、全日本美術教育会議を開催します。本会議は、どなたでも参加できます。



発表者のみなさまへ

- 発表時間：口頭発表20分＋質疑応答5分
- 発表方式：スライド、動画等を用いたプレゼンテーション
◎接続確認は、8：45～9：15または昼食＆交流会の時間帯に各教室で行えます。
＊発表者はPC等の端末を会場に持参してください。
＊HDMI接続となりますので必要な方は変換プラグをご持参ください。

大会・会場に関するお問合せ
研究局 inseajp.research@gmail.com
※●を@に変更してください。

第59回 日本美術教育研究発表会2025										
2025（令和7）年10月5日（日） 会場：明治学院大学白金キャンパス										
8:45 受 付										
9:15		開 会 式 1456教室		※発表者控室：1455教室						
※移動※										
会場	A		B		C		D		E	
	会場A 1451教室（理論等）		会場B 1458教室（実践幼・小）		会場C 1457教室（実践中・高）		会場D 1452教室（AI・プログラミング）		会場E 1453教室（海外事例／海外研究者）	
9:40	A-1 「意味生成」とは別の仕方でも美術教育における意味生成概念の批判的検討～ 1 清家 颯・中川 弘輝・菊地 虹 東京学芸大学・東京学芸大学・立教大学大学院博士後期課程 A群 司会：岩崎	B-1 図画工作科・美術科における作品の「その後」の観点 ―Art-based Researchによるワークショップの実践と分析から― 福田 真子・森本 将希・南 真生・小室 明久 東京学芸大学根拠人研究員・毛島山町立川南中学校・各務原市立坂丘中学校・茨城キリスト教大学 A群 司会：廖	C-1 中学生による「居場所のアート」の提案についての一考察 ―a/r/tographyによる実践事例をケアの観点から読み取る― 家崎 萌 専門教育大学 A群 司会：茂木	D-1 美術教科書からみたアメリカの小学校のSTEAM教育の動向 藤井 康子・西口 宏泰 大分大学教育学部・大分大学研究マネジメント機構 C群 司会：山田	E-1 Arts-Based Researchとしての墨絵ワークショップの展開―生産的な曖昧さと「あいだ」をめぐる実践的考察― 池田 史志・茂木 一司・手塚 千尋・竹丸 草子・大内 進 広島大学・跡見学園女子大学・明治学院大学・アーツカウンシル東京・星美学園短期大学 B群 司会：西村					
10:05										
10:10	A-2 「作品づくりを目指すさい」。造形遊びに関する哲学的考察――非の潜勢力に着目して 2 中川 弘輝 東京学芸大学 A群 司会：岩崎	B-2 「あそび的なまび」の視点を取り入れた造形活動―子どもたちの主体的・対話的で深い学びを実現するために― 竹内 とも子 新宿区立柏木小学校 B群 司会：廖	C-2 仮表現を介した二大交流プロジェクトにおける大学院生の探索について ―制作と語りの往還による実践と展示「うっしょ かりたみ」を事例に― 海 田望・家崎 萌・笠原 広一・神徳 実夢・大塚 真由美・柳瀬 はな 兵庫教育大学大学院連合研究生・専門教育大学・東京学芸大学・専門教育大学教職大学院・専門教育大学教職大学院・専門教育大学教職大学院 B群 司会：茂木	D-2 生成AIを活用した美術教育の評価に向けたCAPGAPモデルの提案 佐藤 美和・長谷川 忍 北陸先端科学技術大学院大学・北陸先端科学技術大学院大学 C群 司会：山田	E-2 JICA海外協力隊との協働実践研究「ガーナにおけるKAIZEN+ARTプロジェクト―価値の再定義を目的とした布の端切れを活用したワークショップ―」 石田 恒平・数下 拓紀 東京造形大学大学院博士後期課程・元JICA海外協力隊 株式会社小松製作所 C群 司会：西村					
10:35										
休憩（10分）										
10:45	A-3 戦後の美術教科書における掲載作品の研究（26） ―1956～2021年度 美術教科書における「抽象表現」学習に関する考察― 3 山口 喜雄 元 宇都宮大学 A群 司会：佐々木	B-3 園児の育ちと姿をとらえる絵本と造形表現 ―教育・保育の内容と子育て支援について― 久保木 健夫 敬愛短期大学 A群 司会：結城	C-3 生徒の学習傾向からみた協働的美術教育の可能性 片桐 彩 女子美術大学 C群 司会：大杉	D-3 創作した漢詩を画像生成AIにて具現化する試み 川人 武 筑波大学附属駒場中・高等学校 C群 司会：山田	E-3 Generative AI in Manga Creation: Exploring Human-AI Collaboration in Art Education Tin Pham Nguyen・Mako Fukuda School of Education, University of Queensland, Australia・Individual Researcher, Tokyo Gakugei University A群 司会：笠原					
11:10										
11:15	A-4 「対話を伴う鑑賞」による学力向上のメカニズム―実証研究に向けた仮説構築― 4 松本 浩司 名古屋学院大学 A群 司会：佐々木	B-4 幼児期の「泥遊び」の質的分析における一考察 岡野 茜・馬場 千晶・石原 加奈子 東京学芸大学・昭和学院短期大学・清心幼稚園 B群 司会：結城	C-4 現代社会の要請に応える「工芸思考」の再定義―中学校美術における予備の実践研究を通じた提案― 古川拓明 東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科 A群 司会：大杉	D-4 現代社会の要請に応える「工芸思考」の再定義―中学校美術における予備の実践研究を通じた提案― Bernadette Thomas Verbundschule Lahr/Junior Highschool B群 司会：笠原	E-4 Democracy is...I – an artistic intervention with students from grade 5-10. Bernadette Thomas Verbundschule Lahr/Junior Highschool B群 司会：笠原					
11:40										
11:50	論文投稿者説明会 11：50―12：30 A会場1451教室			昼食&懇親会 12：30―14：30 1456教室						
14:30										
	A		B		C		D		E	
	会場A 1451教室（理論等）		会場B 1458教室（教師教育）		会場C 1457教室（実践中高大）		会場D 1452教室（AI・プログラミング）		会場E 1453教室（海外研究者） オンライン	
14:30	A-5 美術教育における苦手意識の形成要因としてのスキーマの検討 ―アンケート調査に基づく「美術の時間」に対する認知の実態― 5 長谷川 聡 早稲田大学大学院教育学研究科 C群 司会：小林	B-5 教師が自らの教育実践をマルチモーダルに探究/倫察するArts-Based Educational Research - Geraldine Burkeとの国際的な実践交流から- 和久井 智洋 東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科 A群 司会：佐藤敦子	C-5 開かれた美術館構想における高校生による探究型企画展の実現過程 ―参加者の造形経験と子ども性への回帰に着目して― 坂西 和佳子・家崎 萌 兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科・専門教育大学 A群 司会：藤井	D-5 図画工作科における表現のひとつとしてのプログラミング学習の目的と実践 ―Viscuitが可能にする個人と協働、挑戦の学び― 関口 友美 新宿区立落合第二小学校 B群 司会：三海	E-5 From nature to scientific drawing: Local botany as a visual artistic language in art education Ana Maria Marqués Ibáñez University of La Laguna A群 司会：佐藤真帆					
14:55										
15:00	A-6 図画工作科における情動の働きとその意義に関する一考察 造形遊びの誕生との関連から 6 守屋 建 柳沢女子短期大学 C群 司会：小林	B-6 ドラマの手法を活用した図画工作科・美術科の教育養成に関する一考察：「遊び」を生かした学びの中での小さな変化 岩崎 仁美 北海道教育大学 B群 司会：佐藤敦子	C-6 地域の子どもの木育活動を支える大学生の学び ―SDGsと自然共生社会の理解を促す竹とのふれあい― 三上 慧 東洋英和女学院大学 B群 司会：藤井	D-6 図画工作科におけるプログラミング教材を用いた授業実践～プログラミングの動的表現による造形活動の拡張～ 鈴木 あゆ お茶の水女子大学附属小学校 B群 司会：三海	E-6 Digital Drawings and Sustainability Angela Bejarano Quintero Tacoronte・Ana Maria Marqués Ibáñez University of La Laguna・University of La Laguna A群 司会：佐藤真帆					
15:25										
休憩（10分）										
15:35	A-7 社会と関わる美術教育に見出される固有な価値に関する考察 ―社会関与を意図するアートの動向を手がかりに― 7 山口 秋音 東村山市立秋山小学校 C群 司会：小林	B-7 美術教育における国際交流を通じた人材育成 ①―秋田公立美術大学学生によるフィンランド高校での教育実習を通して― 尾澤 勇・坂本 祥世 秋田公立美術大学・秋田公立美術大学 B群 司会：立川	C-7 「社会に開かれた教育課程」における美的アプローチの可能性 ―「学びの共生」をかなえるための企業との協働実践を通して― 望月 未希 東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科 A群 司会：池田	D-7 中学校美術科の授業におけるリサーチとデザインの関連について―身近な場を対象とする活動を事例とした留意点の検討― 山田 唯仁 岐阜大学 C群 司会：畑山	E-7 Ceramic Sculpture as Practice-Based Research: Risks, Serendipity and Learning Maria Letsiou University of Thessaly A群 司会：片桐					
16:00										
16:05	A-8 高等学校「美術」教科書のデザイン分野に関する研究 ―平成以降のデザイン教材の掲載比率に関する一考察― 8 茂木 祥宏 埼玉県立造修館高等学校 C群 司会：小林	B-8 図画工作科・美術科における教師が子どもたちを「見ること」に関する研究 ―論文調査をもとにする一考察― 茂木 克浩 足利短期大学 C群 司会：立川	C-8 知的障害特別支援学校における版画制作を通じた活動の学び ―「学びの共生」をかなえるための題材開発①― 佐々木 敏幸 明星大学 C群 司会：池田	D-8 美術教育における想像力 柳 芝英 韓国春川教育大学 A群 司会：畑山	E-8 Traditions and Challenges of an International Early Childhood Education Programme in the Intersection of Contemporary Art Pedagogy and Cultural Diversity Pataky Gabriela・Skaliczki Judit DLA・Rekvenyi Viola ELTE TÖK University・ELTE TÖK University・ELTE PPK University 司会：片桐					
16:30										
16:40	閉会式 1456教室									
17:00	全日本美術教育会議 1456教室									
18:30										

■ 日本美術教育研究論集2026 第59号 ■

論文投稿案内

研究論集編集委員会 立 川 泰 史

投 稿 要 項

1 投稿ならびに掲載の条件

第59回日本美術教育研究発表会の発表者及び第58回発表者で論文未投稿者は、『日本美術教育研究論集第59号』に投稿できます。投稿論文の研究論集への掲載は、次の(1)～(7)の条件を全て満たしたものに限り、なお、年度内で筆頭著者として投稿できる論文は、1本のみとします。

(1) 投稿論文の題目（タイトル語句）と内容が、研究発表会の発表論考と同一であること。

(2) 投稿原稿の内容が、未発表かつオリジナルなものであること（重複投稿の禁止）。

(3) 投稿原稿の内容が、投稿された群において定義する下記の内容に適合していること。

A群（理論・実践研究論文：原著論文）…独創性があり、学術的価値を有する知見が含まれた論文。（※この群のみ「英文サマリー」を必須とする）

B群（実践研究報告等）…新規的な内容を含む、すぐれた美術教育実践研究の報告。

C群（研究ノート）…新しい研究テーマや解決すべき問題を展望的に紹介するもの。

(4) 投稿原稿において、論文投稿規程にある書式、分量等が守られていること。

(5) 掲載料を論文投稿メット日時（2025年11月10日24：00）までに納入し添付していること。

(6) 作品の図表・画像・VIDEO映像等の著作物、撮影した写真等の著作権や肖像権等について、投稿者が著作権者・出版社・所有者・本人または保護者等の許諾を証明できること（日本美術教育連合著作権規定への合意）。また、調査分析の内容や運び方等における妥当性及び信頼性及び調査対象者の人権等、研究倫理に即した論考であること。

(7) 研究論集編集委員会による総合審査において、投稿原稿の掲載が妥当と判断されること。

※前号より、海外研究論文を特別枠にて公募しています。

2 論文査読

A群：理論・実践研究論文（原著論文）は3名、B群：実践研究報告等・C群：研究ノートは2名が査読を行い、研究論集編集委員会での総合的な審議を経て掲載の可否を決定します（査読基準を参照）。

掲載が決定した論文は、編集委員会による「論評」を研究論集〈論評の部〉に掲載します。

3 原稿書式

A群・B群・C群ともに、本文／図版（写真・表・図等）と脚註、及びA群のみ必須の「英文サマリー」を含め、下記の《書式・文字数》を厳守して下さい。

(1) 1頁分の基本書式は、A4・横組・2段組、「23字×44行」×2段組＝2024字、とします。但し、第1頁の1行目から2段取り（1段組に統合）で「題目（副題）、所属、氏名」（それらの英文表記またはローマ字表記も含む）を記載します。本文は、1頁目の10行目から2段組で書き始めます。書式は研究局HP（後掲8のURLリンク内）からダウンロードできます。

(2) 原稿では、共通の「項立て・見出し番号」として、以下の番号・見出し語のみとします。

大項目 1. 2. 3. [半角英数字]…、中項目 (1) (2) (3) …、小項目 ①②③…。

(3) 引用文献は、文末脚注に「著者名・『著書名』・刊行所・発行年・引用頁」の順、引用論文は、[執筆者名・

「論文名」・『掲載誌名』・発行所・発行年・引用頁」の順で記述。

4 掲載料（事前納入）について

A群・B群・C群ともに、18,000円。8頁（C群のみ6頁も可）を原則とし、上限は12頁です。2頁増すごとに6,000円を加算（奇数頁でも、余白頁を含み2頁増として計算）します。よって、9～10頁では、24,000円、11～12頁では、30,000円となります。

カラーページが必要な場合は、1頁につき12,500円を加算します。

抜き刷り（50部限定）は、8頁モノクロで7,000円。2頁増ごとに2,000円を加算します。抜き刷りのカラーページは、1頁ごとに2,000円を加算します。

※下記に納入し、利用明細書の画像ファイルを投稿用プラットフォーム内に添付します。

(1) 口座記号番号：00170-1-86036（右寄せで記入）郵便振込です。

(2) 加入者名：公益社団法人 日本美術教育連合

(3) ご依頼人：〒郵便番号・住所・氏名・電話番号・所属機関（現職教員かつ院生は、ひとつを選択）

(4) 通信欄：例）掲載料18,000円（8頁）＋増頁分6,000円（2頁増の場合）＝24,000円（計10頁）

(5) 抜き刷り（50部）、カラー頁を希望する場合、通信欄にも明記し、必要金額を加算してください。

(6) 掲載に至らない場合、納入した掲載料の内6,000円を引いた金額を返金します。

5 投稿締め切り 2025（令和7）年11月3日（月）24：00

6 新しい投稿方法と詳細説明について

第59回研究発表会の当日、新規に導入する「オンライン査読システム」の投稿方法について説明会を設けます。時程・場所を二次案内で確認し、PC持参にて必ずご参集ください。

7 投稿内容

A群・B群・C群ともに、次の①～⑫を提出します。

①氏名、②所属、③投稿区分（群）、④論文題目、⑤日本美術教育連合著作権規定に関する同意、⑥メールアドレス、⑦連絡先住所、⑧カラー頁の有無、⑨抜刷希望の有無（50部東限定）、⑩論文ファイル（word・PDFの2種）、⑪掲載料入金証明書の画像ファイル、⑫「投稿者確認用ループリック」のチェック済みファイル

※投稿原稿は、完全原稿とし、締め切り期日以降の差し替え・変更は認められません。

※発行日は、2026（令和8）年3月31日を予定しています。

8 問 合 先 研究論集編集委員会 研究論集編集委員長 立川泰史（東京家政学院大学）

e-Mail：tachikawa@kasei-gakuin.ac.jp

9 書式ダウンロードURL（論文投稿journal内：inseajp-research.jimdofree.com）

事業局より

事業局 担当理事 三 澤 一 実

■造形・美術教育力養成講座2025（有料 一般3,000円 会員/学生2,000円）

「越境し拡張する美術」をテーマに、11月から2月にかけて以下の通り全3回の連続講座を開催します。

第1回 11月22日（土）「失敗は創造の母か？「ヘボコン」が開く美術教育の未来」

講師：石川大樹（ヘボコン主催者）

内容：「ヘボコン」とは、技術力の低い人のためのロボット相撲大会であり2024年現在、世界25カ国以上で開催されています。上手/下手、失敗/成功といった二元的な価値を超え、創造的でインクルーシブな学びを体現した試みであり、近年では美術教育分野においても注目され始めています。今回はヘボコン主催者である石川大樹先生による講義とワークショップを通して、「うまくできないこと」にこそ創造の種があることや、多様な表現に寛容になれることを実感することで、「役に立つこと」や「上手にできること」ではない視点から美術/教育のあり方を考えていきたいと思います。

会場：武蔵野美術大学市ヶ谷キャンパス 503教室 13：30～15：30

第2回 2月15日（日）「編む、織るからテキスタイルの表現を考える」

講師：鈴木純子（武蔵野美術大学 民俗資料室 教授）

内容：テキスタイルは暮らしに密着した造形と言えます。世界各地ではその土地で得られる繊維などを編んだり織ったりしながら布や生活に使う品を作ってきました。講座では、造形表現の視点から、編む、織る行為を解釈し直します。ワークショップでは自分の身近な素材を数種類用意して、それを段ボールで作った簡単な装置で編んでいきます。そこには素材を感じながら、異素材を編んでいく面白さがあり、「思い出を編む」「ストーリーを紡ぐ」といったコンセプトでテキスタイルを考えて行きます。

会場：武蔵野美術大学市ヶ谷キャンパス 503教室 13：30～15：30

第3回 2月28日（土）「入院患者とアート・キッズアートプロジェクトの取り組み」

講師：渡邊嘉行（総合川崎臨港病院理事長 NPO法人キッズアートプロジェクト理事長）

内容：講師に総合川崎臨港病院理事長 NPO法人キッズアートプロジェクト理事長の渡邊嘉行先生を迎え、入院する子どもたちがアートの制作を通じて、入院生活を楽しみ、お友達同士をたえ合い、治療と向き合い、時には家族に元気を与える、アートを描く子どもたちが主役のキッズアートプロジェクトをスタートした経緯や、現在の活動の様子、そしてなぜアートが病院に必要なのかをなどをお話いただきます。

会場：武蔵野美術大学市ヶ谷キャンパス 503教室 13：30～15：30

※参加方法 事業局の企画はHPにて参加案内を致します（peatixによる申し込み：「日本美術教育連合」のフォローで毎回のイベント連絡が届きます）。造形・美術教育力養成講座は30名を予定。

■造形・美術フォーラム2025 報告

事務局 運営委員 大 杉 健

造形・美術フォーラム2025は東京府中市美術館館長、山村仁志氏をお招きして2025年8月24日（日）15：00より開催された。オンライン参加者38名、対面参加者16名計54名の参加だった。今回の参加者は、美術教育に携わる人が多いということで、あえて、美術教育ではなく美術館関係者から見えてくる「美術を教えること」というテーマにて語っていただくことになった。

最初の話題は、山村氏が東京都美術館時代に取り組まれた事業「ずっとび」プログラム「おうちでゴッホ展」より高齢者（認知病の方も含め）がオンラインでゴッホ展を映像や図版で鑑賞し感想を語り合う事業についてである。ここでは、参加者の声を交えながら鑑賞するということは、どのようなことなのか、山村氏の考えをお聞きすることができた。

次に2024年度「ノスタルジア：記憶のなかの景色」展より。8名の作家を取り上げて、作家が伝えようとしていること、それを見た人の感想などを伝えながら、鑑賞の本質について語られた。

そして、最後のまとめでは、「美術を教えること」は技術や知識やノウハウだけではなく自分自身のかけがいのない体験を誰かに伝えること。そして、この体験のルーツは子ども時代にある。美術を「教えること」「伝えること」とは、もともと自分が子ども時代に体験した感動を芸術と言語を通して子ども達に返す試みである。それは、国籍や世代、空間を超えた普遍的な原風景につながっている、と熱く語られていた。



く語られていた。

参加者からは、展覧会を創る側からの話を聞くことができてよかった。とか正解を聞くというのではなく、とまどいを持ちつつも、見る人への伝え方（児童・生徒）を考えている姿に心を打たれたなどという感想が多く聞かれた。

また、最後は大坪圭輔理事長から、今後は、美術館と教育現場の連携が益々求められているということをお聞きし、熱気のあるフォーラムを終了した。

国際局より

■ InSEA世界会議2025 ■

日本美術教育連合理事・国際局運営委員長 西村 徳 行

InSEA世界会議2025が『Unexpected Territories（予期せぬ領域）』をテーマに、チェコ共和国オロモウツで7月21～25日に開催され、理事会・運営員会で現地の様子が報告された。オロモウツは中世の街並みが残る人口10万人の小規模な都市で、歴史的建物が残るパラツキー大学が会場となった。約200の発表エントリーがあり、全体で約250名の参加があった。日本からも約20名が参加し、アジア（台湾・韓国等）からの参加も活発であった。イベントは口頭発表の他、ポスター発表、ワークショップ、テラス交流、音楽会、教会イベントなどが実施された。運営には学生スタッフ約80名がサポートとして参加し、環境や会場の規模を配慮した実施となった。地区会議では、アジア地区の日本、韓国、台湾、中国本土の参加者が集まり情報交換を行った。InSEA本部も、アジアからの発信に期待しており、日本はアジア内での連携のハブとして、知見共有や人材ネットワークの構築で主導的役割を果たしていきたい。



InSEA ホームページから



写真左上：中世の街並みが残る市街中心部の様子 写真右上：彫刻や版画のアトリエなども使って発表会場がつけられた
写真左下：イーゼルを使ったポスター発表の様子 写真右下：アジア地区会議での会員の自己紹介の様子

■ InSEA世界会議2025ウェブサイト (<https://www.inseaconference.com>) ■

事務局より

■事務局便り■

事務局長 岩 崎 仁 美

□会員の異動

〈退会者〉

岡田匡史様 高橋英理子様 眞柴さなえ様

(これまで連合を支えていただき、まことにありがとうございました)

〈入会者〉

富田絵理葉様 望月未希様 神徳実夢様 大栗真由美様 HAI RIHAN様

長谷川忍様 和久井智洋様 長谷川聡様 関口友美様 南真生様 柳瀬はな様

(これからどうぞよろしく願いいたします)

□10月5日(土)に第59回日本美術教育研究発表会2025を開催いたします!

第59回日本美術教育研究発表会2025(文化庁後援)を今年も開催いたします。エントリーいただきました会員のみなさまにおかれましては、まことにありがとうございました。

本年度は、国内からは32件、海外からは5件の発表申込みがあり、多彩な発表が期待されます。会員のみなさまにおかれましては、ぜひ会員外の方も誘いいただき、本研究発表会を盛り上げていただきますようお願い申し上げます。

□令和7(2025)年度会費納入のお願い

本年度より年会費が改定されております(7,000円へ改定)**令和7(2025)年度会費 7,000円 を 納入してください。**

※(公社)日本美術教育連合の会計年度は、毎年4月1日から翌年4月末日までです。
納入期限が過ぎておりますので、まだお納めでない方はお早めの納入をお願い申し上げます。

【郵便振替】

(公社)日本美術教育連合 口座番号00170-1-86036

【ゆうちょ銀行以外の金融機関(ネット銀行を含む)からの送付先】

《銀行名》ゆうちょ銀行《支店番号》019《預金種目》当座《口座番号》0086036

- *同封の振り込み用紙をご利用ください。(恐れ入りますが手数料はご負担ください。)
- *当連合からお送りする振込票には、確認のため次年度分の納入費が記載されています。
- *過去3年以上会費未納の方につきましては、今回ご入金いただけない場合「除名」という対応をとらざるを得ません。ぜひ納入にご協力ください。なお今回のお願いと行き違いですでに納入済みの方には、失礼をお許しください。

□お問い合わせ先:公益社団法人日本美術教育連合 事務局 岩崎仁美

〒068-8642 岩見沢市緑が丘2丁目34-1

北海道教育大学 岩見沢校 芸術・スポーツ文化学科 美術文化専攻 美術教育研究室

Tel & Fax: 0126-32-0367(研究室直通) E-mail: iwasaki.hitomi@i.hokkyodai.ac.jp